

# 進捗状況報告シート

(2012年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	日本語教育センター
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価(2011.5.1～2012.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2011年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2011年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価		
		2011	2012	2013
1. 日本語未習者を対象にしたプログラム案を策定する。	プログラム案の策定状況 評価基準： A→日本語未習者を対象にしたプログラム案を策定 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	B		
2. 関学の留学生の実情に即した日本語教育プログラム案を策定する。	プログラム案の策定状況 評価基準： A→関学の留学生の実情に即した日本語教育プログラム案を策定 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	B		
<del>3. 質の高い留学生の確保のための方策案を作成する。</del>	<del>方策案の作成状況 評価基準： A→質の高い留学生の確保のための方策案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定</del>	D		
4. 各学部・センター・研究科との連携の方策案を作成する。	連携の方策案の作成状況 評価基準： A→各学部・センター・研究科との連携の方策案を作成する。 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	C		
		☆		
2012年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2011	2012	2013
	→			
	→			

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 (理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ <input checked="" type="radio"/> 理念・目的を設定している <input type="radio"/> 理念・目的を設定していない (理念・目的) 日本語教育センターは、本学の国際化の重要な柱の一つである「多文化が共生する国際性豊かなキャンパスを実現する」という理念の下、外国人留学生の数の増加や質の多様化という事態に対し、その受け入れの要となる日本語教育を充実・発展させることを目的とする。
	(説明)
★ 小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。 (周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→ <input type="radio"/> 周知・公表している <input checked="" type="radio"/> 周知・公表していない (説明) 2012年度中に公表、周知の方法について検討し、当年度中の公表を目指す。
	(説明)
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input type="radio"/> 検証している <input checked="" type="radio"/> 検証していない (説明) 2012年度中に定期的な検証の方法について検討し、検証を始める予定である。
	(説明)
その他	

《評価指標データ》

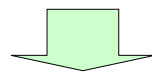
★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

小項目0.0.1	
★ 小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	



《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策（伸長させるための方策）は次のとおりである。

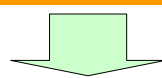
小項目0.0.1	
★ 小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

### 《点検・評価(2)》改善すべき事項 注) 出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

小項目0.0.1	「3. 質の高い留学生の確保のための方策案を作成する。」という目標設定は、そもそも日本語教育センターの理念・目的の趣旨には沿わない。
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	



### 《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注) 出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

小項目0.0.1	目標設定から削除する。
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

## ◎自由記述

上記以外は次のとおりである。

### 《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★ その他 (自由記述)	日常的なプログラム運営、あるいは急遽課せられたプロジェクトや組織変更に対応するために忙殺され、すべての目標に関して、その方策案策定のための検討が不十分である。次年度に向けて、方策案策定について、重点的かつ速やかに検討する。
-----------------	---

## Ⅲ. 学内第三者評価 <評価専門委員会の評価>

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

- 「現状の説明」の0.0.1では、理念・目的の内容の記述だけでなく、その適切性に関する説明が求められています。（説明）の欄に、その点についての記述をお願いします。
- 国際化の重要な柱である日本語教育を少人数で担われており、業務に忙殺されていることが推察されます。理念・目的の達成を願います。
- 目標の指標を評価する基準（評価基準）を目標設定時から作っていることは、評価がぶれることがなく大変好ましいことです。
- 本報告シートの形式は、大学基準協会の内容に準拠しているため、センターの状況に充分対応したものではなく、センターの活動内容を記述する箇所がありません。従って、他の項目（4. 教育研究組織、11. 教員・教員組織）を見てもセンターの活動がよくわかりません。本項目「0. 理念・目的」のシートに、（活動内容）として具体的に示していただければと思います。そしてその中で設定した目標の進捗状況について触れていただければと思います。
- 小項目0.0.2、0.0.3については実施されていないという記述ですから、改善すべき事項に当然記述されるべきでしょう。
- 小項目0.0.1では、日本語教育センター規程に示されていることを記述する必要があるでしょう。
- 目標3の削除ですが、設定したばかりで削除することは問題があると思います。1年かけて十分な検討の上設定したはずですが、理由が、「センターの理念・目的に沿わない」ということであれば一層そう感じます。しかしながら、適切でない目標を置いておくことは出来ませんので削除はやむを得ないとは思いますが。

## IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

III. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

○《目標・指標》

2011年度に設定した目標の「1. 日本語未習者を対象にしたプログラム案を策定する。」についてはBからAに、「2. 関学の留学生の実情に即した日本語教育プログラム案を策定する。」についてはBからAに、「4. 各学部・センター・研究科との連携の方策案を作成する。」についてはCからDに、それぞれ変更する。評価者の評価基準についての理解が不十分であったため。

○《現状の説明》

小項目0.0.1の(説明)に以下を記載する。

「日本語教育センターは従来、国際教育・協力センターと言語教育研究センターにおいて別々に提供されていた日本語教育プログラムを統合して、外国人留学生の増加、多様化に即応しながら、教員間の連絡、連携を強化し、より優れたプログラムを提供しようとしたもので、上記の目的はセンター設立の趣旨に合致し、適切である。また、上記の理念・目的は日本語教育センター規程に明示されている。」

○「その他」の項目に以下を記載する。

「(活動内容)本センターでは、学部、大学院の正規外国人留学生用の日本語教育と交換留学生用の日本語教育プログラムを提供している。前者は日本語で書かれた研究論文や論説文を読むことができること、また日本語による口頭のプレゼンテーション、論文発表ができることを目標としたプログラムで、これらを効果的に教授するため、毎学期プレースメントテストを実施して、技能・能力別にクラスを編成している。後者は日本語未習のレベルから日本語能力2級レベルの交換学生用のプログラムで、技能・能力に応じ、また交換留学の目的(日本文化傾斜、日本語習得傾斜)に応じてクラス・コースを細分し、さらに大学の学期(春学期、秋学期)に加え、2月～3月に約1ヶ月の集中プログラムを提供して、短期間に学生の目的が達成できるように配慮している。両者とも、科目コーディネーターを中心とするチーム・ティーチングを採用し、教員間で連絡を密にして科目の目標を共有し、一人一人の学生の学習とその結果の状況を確認しながら教授できるようにシステムを構築、運営している。したがって、2011年度に設定した「目標」の1, 2は達成した。なお、本センターでは、上記の日本語教育以外にも、留学生の学習意欲の維持のための企画として、毎年「留学生ウィーク」を開催し、日頃の学習の成果を一般に公開している。さらに海外の協定校からの短期日本語研修の受け入れを大学の春学期・秋学期の授業期間外に実施している。」

○「◎効果が上がっている事項」の「その他」に以下を記載する。

「《現状の説明》「その他」の記述からもわかるように、目標1については未習者用のプログラムを策定、実施し、また目標2についても、留学生の目的、実状に即してきめ細かいプログラムを構築し、実施している。」

○さらに、《次年度に向けた方策(1)》「その他」に以下を記載する。

「すでにプログラムが実施されているため、伸長させるための方策は特にない。ただし、現行のプログラムを数年走らせながら、注意深く問題点を剔出し、よりよいプログラム作りのための情報を収集する。」

○「◎改善すべき事項」の小項目0.0.2に以下を記載する。

「理念・目的の教職員・学生への周知、並びに社会への公表の実施」。

また小項目0.0.3に以下を記載する。

「理念・目的の適切性について定期的な検証の実施」。

さらに「その他」に以下を記載する。

「目標4については、現在国際学部に入学者の日本語未習の留学生に対するプログラム提供の方法について覚書を作成中であるが、国際学部の外国語履修のシステムとの摺り合わせが困難だったためまだ合意に至っていない。」。

○「《次年度に向けた方策(2)》改善方策」の小項目0.0.2に以下を記載する。

「理念・目的の教職員・学生への周知については、「日本語教育センターのしおり」に掲載し、定期的開催される講師会(非常勤講師を含む全教員の連絡会)を通じて、周知徹底させる。社会への公表は本センターのH.Pの冒頭に明記する。」。

小項目0.0.3に以下を記載する。

「理念・目的の適切性については、毎年3月の日本語教育センター拡大連絡会(メンバーは専任教員、特別契約教員、常勤教員、専任職員)において、必ず議題として取りあげ、検証する。」。

さらに「その他」に以下を記載する。

「国際学部との連携について、ほぼ合意形成ができつつあり、次年度中に覚書が交わされる予定である。この覚書をモデルとして、要望があれば、各学部、センター、研究科の実状に応じた連携策を協議してゆく。」

○◎「自由記述」の記載はすべて削除する。評価者の評価方法についての理解が不十分であったため。